

火山災害とは

火山は時として大きな災害を引き起こします。災害の要因となる主な火山現象には、**大きな噴石**、**火砕流**等があります。また、火山噴火により噴出された降下火砕物が積もっているところに雨が降ると**土石流**が発生しやすくなります。火山現象は、現象ごとに温度や速度、到達距離に違いがあります。居る場所によって、避難すべき現象が異なりますので、注意が必要です。例えば、大きな噴石の飛散は山中で、火砕流や火山灰の降下は市街地でも警戒が必要な現象です。特に、大きな噴石、火砕流、融雪型火山泥流は、噴火に伴って発生し、避難までの時間的猶予がほとんどなく、生命に対する危険性が高いため、**噴火警報**や避難計画に基づいた事前の避難が必要です。



十勝岳 62-II 火口

火山ガス

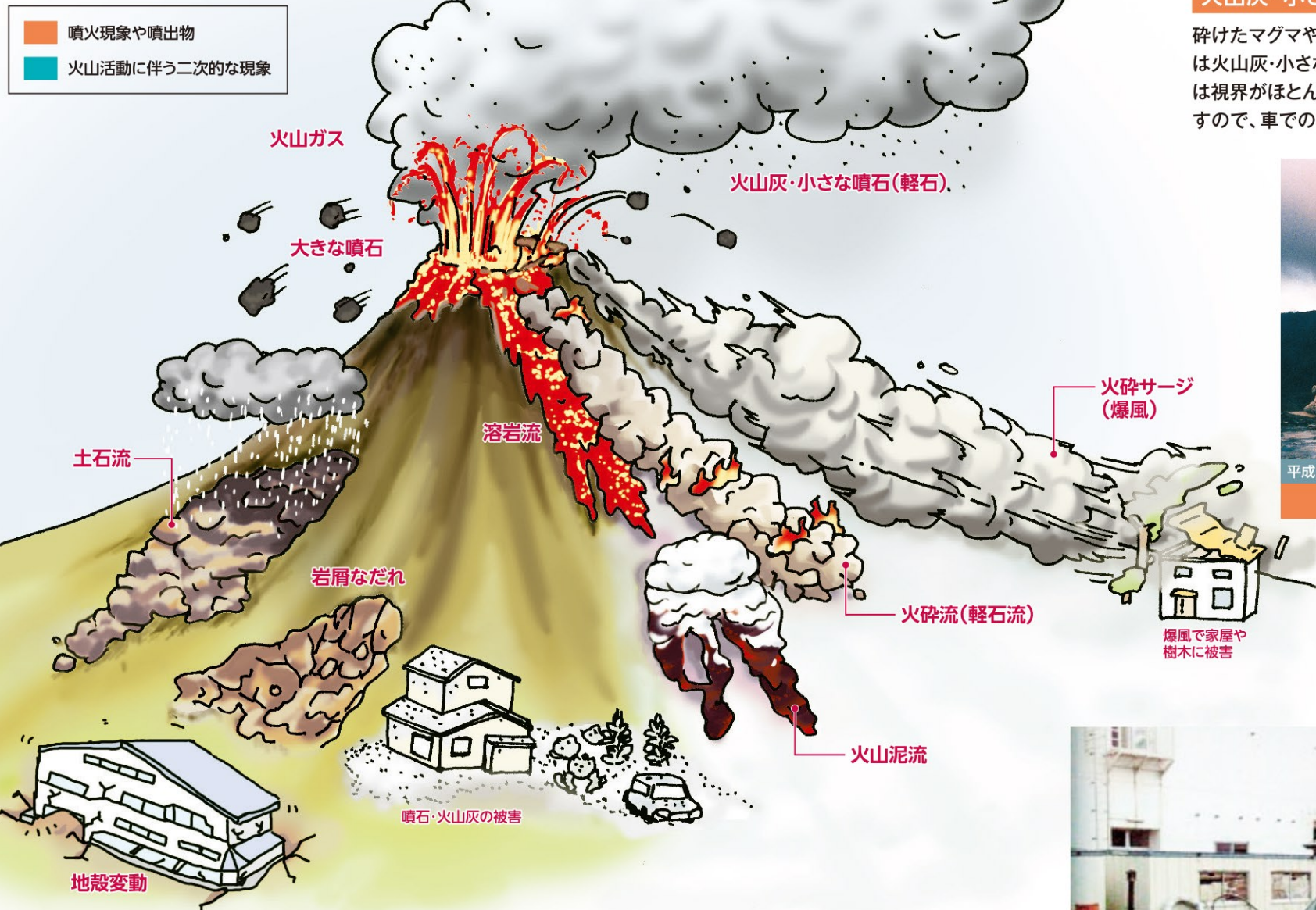
火山活動によって地表に放出される気体のことです。主な成分は、水、二酸化硫黄、硫化水素、二酸化炭素などです。二酸化硫黄と硫化水素には刺激臭と強い毒性があり、呼吸器に疾患のある方は症状が悪化することがあります。



砂原岳と平成8年(1996年)からの小噴火による噴石状況

大きな噴石

噴火の激しい勢いで、火口を塞いでいる岩石が周囲に飛散することがあります。小噴火でも直径20cm~30cm以上の大きな噴石が飛んでくるので、噴火が懸念されるときに火口に近寄ることは非常に危険です。過去には小規模な噴火でも火口から600m程度まで大きな噴石が飛散したことがあります。小噴火の発生は予測が難しいため、登山の時には、万が一に備えてヘルメットを携行しましょう。噴火に気づいたら、直ちに火口から離れて下山してください。



平成12年(2000年)有珠山噴火の西山火口近く、某菓子工場の被害状況

地殻変動

マグマが火山体の中に上昇してくることで、火山やその周辺の地盤が徐々に持ち上がったり、ずれ動いたりすることがあります。その結果、建造物が破壊されてしまいます。



北海道駒ヶ岳 昭和4年(1929年)大噴火・東大沼の降下火砕物

火山灰・小さな噴石(軽石)

砕けたマグマや岩石が火山ガスとともに噴煙となって上昇し、風下側では火山灰・小さな噴石(軽石)が降り注ぎます。火山灰が降っている最中は視界がほとんど無くなります。また、積もった火山灰の上はぬかるみますので、車での走行や歩行が困難になります。



平成5年(1993年)雲仙普賢岳(長崎フォトサービス提供)

火砕流(軽石流)・火砕サージ

高温の軽石や火山灰が周囲の空気を取り込みながら時速100kmを超える速度で斜面を駆け下る現象です。火砕流の到達範囲に居ると逃げることは不可能です。北海道駒ヶ岳の大噴火では、毎回発生しています。



北海道駒ヶ岳平成8年(1996年)小噴火後の留ノ沢、温泉施設の被害状況

土石流・火山泥流

噴火によって地表に積もった火山灰が雨で流され、火山灰や河床の土石を巻き込んで破壊力の大きな流れになります。また、積雪期に火砕流が発生すると雪が溶けて融雪型火山泥流が発生することがあります。これらは、時速60kmに達することもあります。